

職場訪問を控え、社会人としての基本を学びました。

1年 中学生のマナー基礎講座 1月22日(水)

本校では、外部人材の活用を積極的に行うことで、学習活動の充実を図っています。今回は、1年生が職場訪問に向けて、訪問時の挨拶や立ち振る舞いなど、社会人としての基礎的なマナーについてのご指導をお願いしました。講師は、元 JAL 国際線客室乗務員で、企業や国際会議等での接遇やその指導のご経験を持つ、斎藤 貴子 様です。



1月22日(水) 5時間目、アリーナを会場に学年一斉に行いました。始めに、マナーとは何かということや「マナーの5原則(挨拶 ②表情 ③身だしなみ ④言葉遣い ⑤立ち居振る舞い)」について説明していただきました。その後、「第1印象は会って3秒～5秒で決まる」、「笑顔」「身だしなみ」「言葉遣い」「声のトーン」が特に大切 ということから、笑顔の練習や身だしなみのチェック、お辞儀の練習等を、ペアワークを交えながら丁寧にご指導いただきました。



また、キャッチボールに例えながら、マナーには ①相手を思いやる気持ち ②みんなが気持ちよく過ごせるようにするため ③思っていることを相手に伝える という意味があることも教えていただきました。客室乗務員をされていた頃の失敗例を折り込みながらの分かりやすいお話もあり、実社会でのマナーの大切さについても学ぶことができました。

今回学んだ基礎的なマナー等は、職場訪問だけでなく、高校の面接試験や社会に出てからも使える、社会人として大切な力です。しかし、ただ知っているだけでは、そうした立ち振る舞いや言葉づかいができるようになるわけではありません。実際に使っていくことで身についていくものなのです。学校生活では、授業開始のお辞儀や職員室への出入り、先生との会話など、実際に使ってみる機会がいくらでもあります。今回、学んだことを日頃の学校生活でも意識して使ってみてほしいと思います。そして、意識しなくてもできるような、自分自身の“本物の実力”にしていきましょう。

